

最優秀賞

私の大好きな川

茨城大学教育学部附属中学校

二年 小橋結友

私の家の近くには、川があります。毎朝、学校に行く時に見ると、日が当たる所にはカメがいたり、魚を狙って真つ白なサギがじっとしているのが見えたりします。毎年、夏の夜にはホタルが飛び交い、私は妹と一緒にホタル来いと歌ってホタルを呼びます。私は、この川が大好きです。

しかし最近、その川について心配なことがあります。それは、私がカワセミを見に川へ行った時のことです。

私が川の方へ歩いていくと、コバルトブルーの体が、日に当たってキラッと見えました。私は嬉しくなって、すぐに家族に報告に行くと、お父さんは「よかったね」と言ってくれました。「魚はいた

の」と聞かれたので、「水が濁っていて見えなかった、あまりいなそう」と答えました。すると、おじいちゃんが「昔はもつと魚がたくさんいたんだ。カニやウナギもたくさん釣れた。」と言ったのです。それが、私には自然豊かだった昔を懐かしんでいるように見えました。今よりも、もつと、もつと綺麗だった川を。そして、私は想像しました。昔の綺麗な川、鋭く通り過ぎたコバルトブルーのカワセミ、そして今は茶色く、暗くなつた川――。

想像しているうちに、ふと、去年の夏の川の様子がい思い出されました。それは、お父さんと妹と一緒に行った河原。缶が落ちていました。はじめはそれだけだと思っていました。見回してみると、ビンやボール、自転車のタイヤまで落ちています。河原には夏なので草が高く生えていて、そこに隠れるようにしてありました。そのゴミは、遠くからだと見えず、河原まで近づかないと見えません。見えないからと言って、軽い気持ちで捨てたのでしょうか。お父さんや妹は驚いているようでした。私もとても驚いたけれど、魚は大丈夫なのが気になりました。

また、学校の図書室で川に関する本を見つけました。読んでみると、「プラスチックなどのゴミを放置すると、雨水などによって有害物質が土に溶け出し、川の水を汚染します」（森と水と土の本 二〇二四年四月）とありました。また、プラスチックは魚などが間違って食べてしまうこともあるそうです。軽い気持ちで捨てたゴミは、魚たちにとっては、命を奪われる兵器だったのです。

そして、川の汚染はゴミだけでなく、洗剤や食べ残しなどの「家庭からの生活排水の影響が大きくなっています」（茨城県IP パンフレット「みんなので実行！生活排水対策」五月一日閲覧）とあり、汚れの三割近くを占めているのだそうです。確かに、あの川は茶色く濁っていました。泡もありました。それも、生活排水、ゴミ、全部人間のせいなのです。

今、川では異変が起きています。私の家の前の川だけでなく、日本、世界の川が汚染され、苦しめられています。私たちの軽い気持ちからの行動が、多くの生物の命を奪っているのです。しかし、私たちに原因がある以上、できることがあります。だから

私は、日常生活の中で、一つ一つ、できることをしたいです。例えば、洗剤ワンプッシュ運動。洗剤はついつい使いすぎてしまいますが、川を汚染する原因の一つです。ワンプッシュと、使用量を決めておけば、洗剤の使いすぎを防げると思います。また、今の現状を知ること、大切なことの一つだと思います。今川で何が起きているか、それを知っていたら、川にゴミを捨てるなんてことはしないでしよう。

ウグイを釣った川、石集めもできる川、眺めるだけでも楽しい川、そして、魚、カワセミ、人間がみんな生きていく川。私ができることは本当に小さなことですが、積み重ねれば、きっと意味のあるものになると思います。私の家の前の川、この先もずっと、よろしくね。